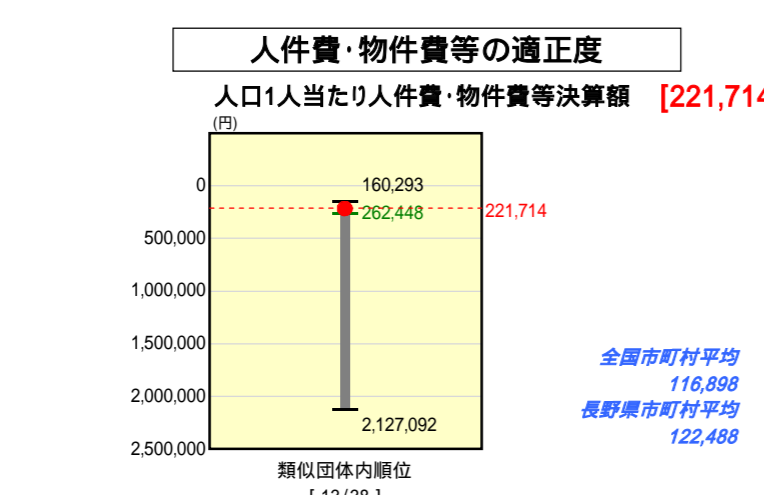
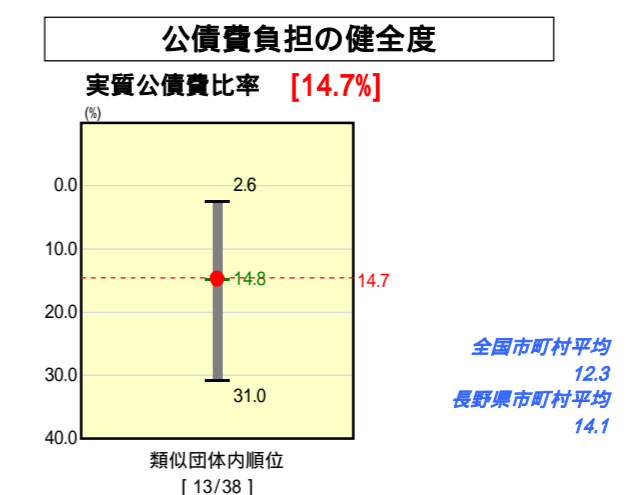
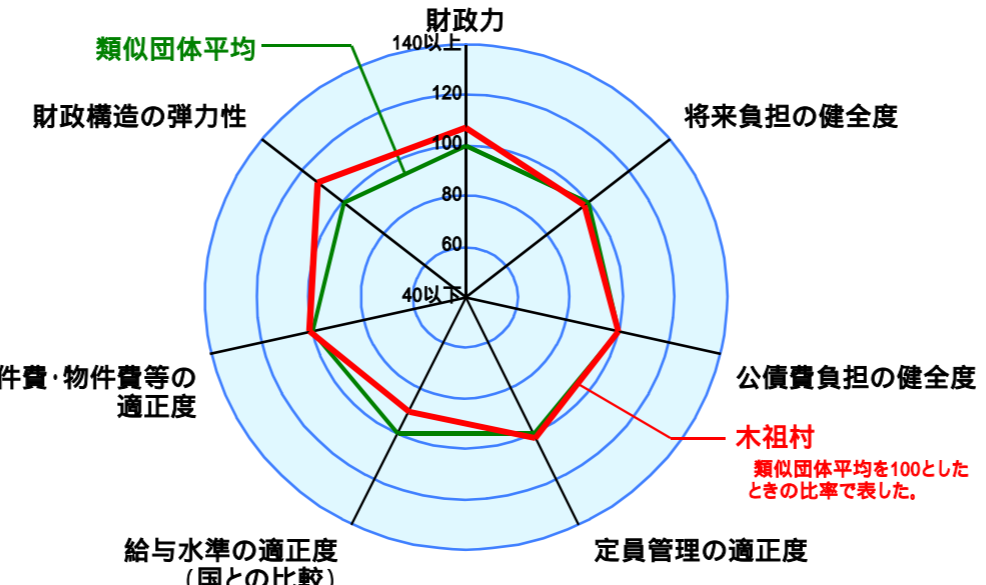
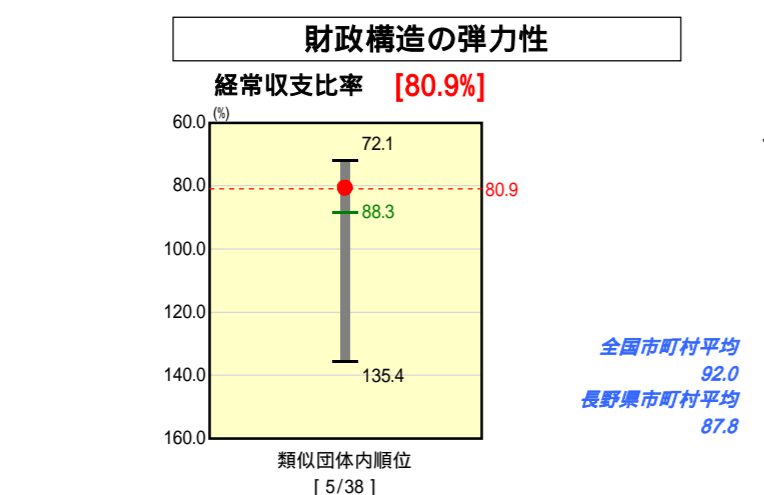
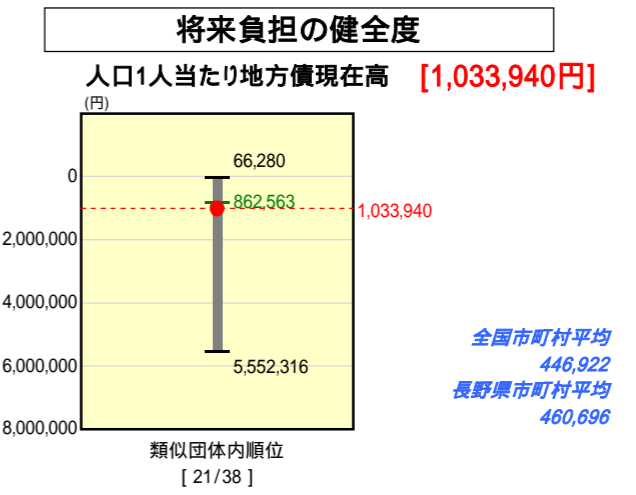
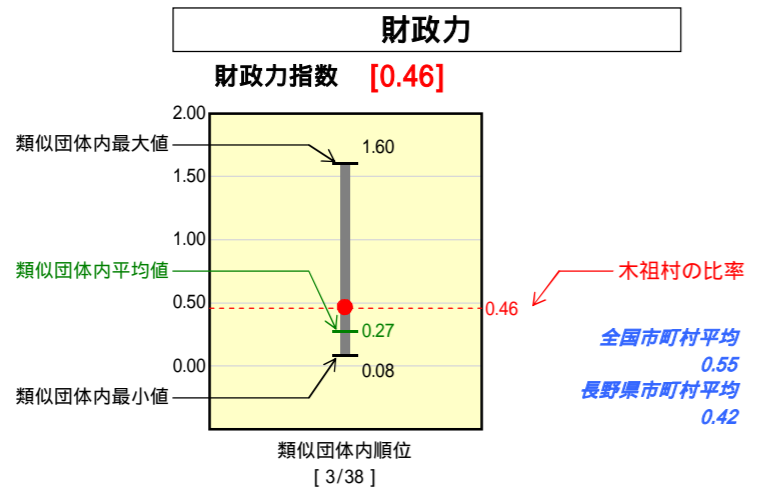


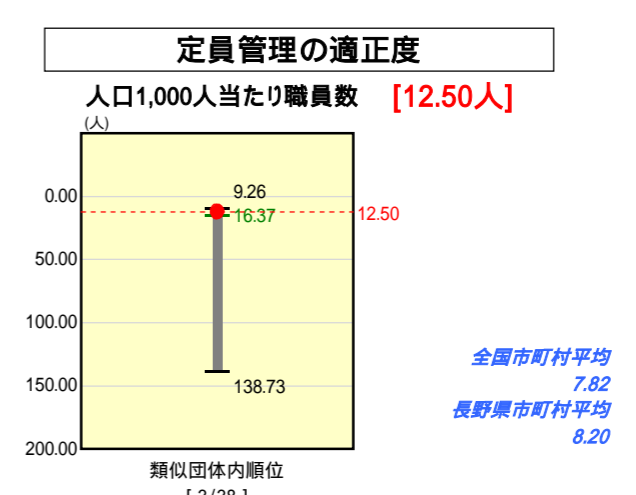
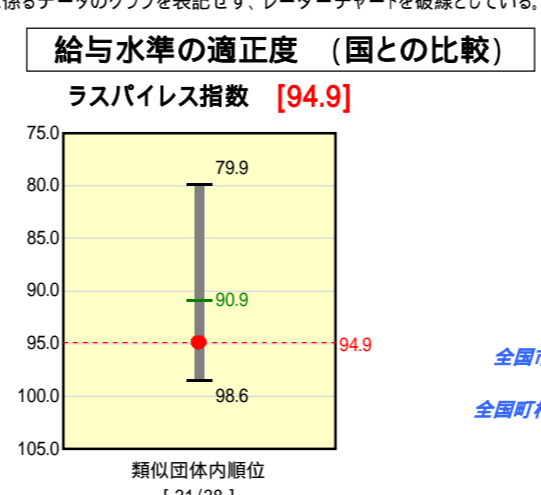
市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

長野県 木祖村

| | | |
|------|-----------|-----------------|
| 人口 | 3,360人 | (H20.3.31現在) |
| 面積 | 140.46 | km ² |
| 歳入総額 | 2,383,042 | 千円 |
| 歳出総額 | 2,363,483 | 千円 |
| 実質収支 | 19,559 | 千円 |



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



分析欄

【財政力指数】
味噌川ダム償却資産税により類似団体を上回る税収があるため、0.46となっている。しかし、税収の約6割を占めている味噌川ダム償却資産税はH19年度をピークに減少する。なお、H18年度から本格的な徴収業務の強化に取り組んでいるが、人口の減少や高齢化の進行に加え、長引く景気低迷による個人・法人関係の減収などによる財政の悪化が懸念される。今後もH17年度に策定した「行政改革大綱」と「集中改革プラン」に沿った行政の効率化に努め、引き続き財政の健全化を図る。

【経常収支比率】
経常経費の大幅な削減等により、80.9%と類似団体平均を下回っているが前年度と比較すると3.4%も上昇している。今後も事務事業を評価検証するとともに、村民との協働、委託業務の適正化等により、経常経費の削減を図る。

【人件費・物件費等】
特別職・議員の人件費や職員削減、各種団体への補助金・交付金や各種事業・イベント・行事・維持管理業務等々見直しを図り、歳出の抑制に努めてきた結果、類似団体平均を下回っている。今後もコストの低減を図ってゆく。

【ラスパイレス指数】
全国町村平均を僅かに上回る94.9となっている。手当については、村独自のものや国の基準を上回るものはないが、支給実態のない特殊勤務手当については早急に見直し、廃止を進める。

【地方債残高】
人口1人当たりの地方債残高は、前年度と比較してわずかに上昇したが、期末現在高は減少している。新規地方債発行の抑制等により財政の健全化に努める。

【実質公債費比率】
3年平均では、14.7%と類似団体の平均値を上回っているが、前年度と比較し1%下げている。H19年度には、村営水道特別会計の財政健全化のため5%以上の利率での起債借入額について借換をせず繰上償還を行った。また、下水道関係事業債については資本費平準化債を活用し、公営企業債に対する繰出金の抑制を行っている。投資事業については、優先順位を明確化し村債の抑制にも十分留意し、将来にわたる財政の健全性の確立を図る。

【人口1,000人当たり職員数】
定員適正化計画により、適正な定員管理を実施してきたため、「定員モデル」や「類似団体職員数」と比較しても決して多いとはいえない。今後も、平成22年度を目標とした新たな適正化計画に基づき適正な定員管理を推進する。

人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。